

UNIJAPAN

平成 20 年度
(2008 年度)

事業報告書

自 2008 年 4 月 1 日

至 2009 年 3 月 31 日

財団法人日本映像国際振興協会

平成 21 年 6 月 29 日

平成 20 年度 事業実績報告書

I. [事業の状況]

(1) 国際映画祭事業

名 称： 第 21 回東京国際映画祭
主 催： 財団法人日本映像国際振興協会
(ユニジャパン／第 21 回東京国際映画祭実行委員会)
共 催： 経済産業省(マーケット部門)、東京都(コンペティション部門)、
期 間： 平成 20 年 10 月 18 日(土)～平成 20 年 10 月 26 日(日)
企 画： コンペティション、特別招待作品、アジアの風、日本映画・ある視点、
ワールド・シネマ、natural TIFF、animecs TIFF、ニッポン・シネマ・
クラシック、TIFFCOM 2008(アジア・パシフィック・エンタテインメント・
マーケット)、第 4 回文化庁映画週間、cyber TIFF(オフィシャルサイト)他
会 場： Bunkamura(渋谷区)／六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、
その他都内劇場及び施設・ホールを使用
後 援： 総務省／外務省／環境省／(財) JKA／(独) 国際交流基金／
渋谷区／港区／日本貿易振興機構／(社) 日本経済団体連合会／
東京商工会議所／(社) 日本映画製作者連盟／(社) 映画産業団体連合会／
(社) 外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション
(MPA)／全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業
組合／(財) 角川文化振興財団／(財) デジタルコンテンツ協会／
(財) 港区スポーツふれあい文化健康財団／(社) デジタルメディア協会／
NPO 法人映像産業振興機構／(社) 日本映像ソフト協会
補助・助成： 財団法人 JKA(競輪公益資金)
支 援： 平成 20 年度文化庁国内映画祭支援
スペシャルパートナー： トヨタ自動車株式会社
オフィシャルパートナー： 株式会社木下工務店／日本コカ・コーラ株式会社／富士ソフト株式会社
協 賛： キヤノン(株)／大和証券グループ(株)ファンケル／パナソニック(株)
東急グループ／森ビル(株)／(株)WOWOW／全日本空輸(株)／(株)SANKYO
凸版印刷(株)／(株)AOKI／サッポロビール(株)／富士フィルム(株)
角川グループホールディングス／ぴあ(株)／
松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／角川映画(株)／日活(株)／TOHOシネマズ(株)
(社) 映画文化協会／(株)ティー ワイ リミテッド
特 別 協 力： 読売新聞

【開催概要】

第21回東京国際映画祭は平成20年10月18日(土)から10月26日(日)までの9日間、渋谷のBunkamuraと六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。また、今年で5回目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2008「アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット」も六本木アカデミーヒルズ内で開催されたが、各会場とも大変な賑わいを見せ、好評裡に終了することが出来た。

“Action! For Earth”、「エコロジー」をテーマに掲げる世界初の映画祭になった今年は、再生PETペット素材を使用したグリーンカーペットをはじめ、全上映をグリーン電力で実施、さらにグリーンタイ晚餐会、Earth Conferenceなどのイベントを行なった。

今映画祭の自主企画は21企画、動員数は119,490名、上映作品数は188本であった。提携企画まで入れると、企画総数は31、総動員数は404,229名、総上映作品数は314となった。

オープニングセレモニーは10月18日(土)に、TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。依田チエアマンの開会宣言の後、特別参加の麻生太郎内閣総理大臣が祝辞を述べられた。続いて国際審査委員及びコンペティション作品の紹介が行なわれた。

オープニング作品は、ジョン・ウー監督の「レッドクリフ Part 1」で、出演俳優たちによる舞台挨拶もあり、盛況のうちに上映された。終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、歓迎レセプション、グリーンタイ晚餐会が行なわれた。

クロージングセレモニー(授賞式)は、10月26日(日)にBunkamuraオーディトリアムホールで開催された。授賞式では、「黒澤明賞」「最優秀アジア映画賞」「日本映画・ある視点」の作品賞、特別賞の贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はセルゲイ・ドヴォルツェヴォイ監督の「トルパン」に贈られた。また、今年新設された「TOYOTA Earth Grand Prix」はホセ・アントニオ・キロス監督の「フェデリコ親父とサクラの木」に贈られた。

【自主企画】

(1) コンペティション (共催: 東京都)

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2007年7月以降に完成した35ミリ長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト(作品関係者)によるティーチ・インを行い、観客との交流の輪を広めた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、6名(日本人2名を含む)で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、10月26日

の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには10万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千ドルが副賞として贈られた。東京サクラグランプリ作品には東京都知事から賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万ドルが1作品に贈られた。

東京 サクラ グランプリ：『トルパン』（監督 セルゲイ・ドヴォルツェヴォイ）

審査員特別賞：『アンナと過ごした4日間』（監督イエジー・スコリモフスキイ）

最優秀監督賞：セルゲイ・ドヴォルツェヴォイ（作品『トルパン』）

最優秀主演女優賞：フェリシテ・ウワシー（作品『がんばればいいこともある』）

最優秀主演男優賞：ヴァンサン・カッセル

（作品『パブリック・エナミー・ナンバー1』）

最優秀芸術貢献賞：『がんばればいいこともある』

（監督 フランソワ・デュペイロン）

上映数 15作品 動員数 9, 152名

（2）特別招待作品

国内未公開の話題作品を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映数 25作品（内、旧作3本） 動員数 12, 238名（「特別上映」6本を含む）

（3）アジアの風

現在世界でもっとも熱気が感じられるアジアの映画を対象に、さらに地域を拡大して、選定した新作に、「アジア中東パノラマ」と韓国の怪物的監督といわれた「キム・ギヨン特集」を合わせた35本を上映、各作品のスタッフや出演者を招聘して観客との交流をはかるとともに、国際映像マーケットにも参加してもらい、アジア映画の産業の発展に繋げることが出来た。

上映数 35作品 動員数 8, 981名

最優秀アジア映画賞

「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画賞審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万ドル（渋谷地区委員会）が贈られた。併せて渋谷区から区長賞の「楯」が贈られた。

最優秀アジア映画賞：『私のマーロンとブランド』（監督 フセイン・カラベイ）

（4）日本映画・ある視点

活況を増している日本映画を対象に、テーマ別にある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画である。個性に溢れた多様性のある作品10本を上映した。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞と特別賞が選ばれ、それぞれに100万円が

贈られた。

作品賞 『buy a suit』 監督 市川 準

特別賞 岸部 一徳 作品『大阪ハムレット』の演技

上映数 10作品 動員数 4,107名

(5) ワールドシネマ

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未公開の作品など、世界で話題になっている新作の数々を紹介する企画である。

上映本数 10作品 動員数 3,555名

(6) natural TIFF

エコロジーをテーマに掲げた本映画祭が21回から新たに設けた部門。「自然と人間の共生」という視点から、ドラマ、ドキュメンタリーを含め、また新作、旧作を問わず柔軟な選定を行なった。

上映本数 27作品 動員数 2,985名

TOYOTA Earth Grand Prix

「natural TIFF」部門で上映された新作及び、自主企画の全上映作品を対象に、審査委員会の審査により、3作品に次の各賞が贈られた。

TOYOTA Earth Grand Prix :

「フェデリコ親父とサクラの木」(監督 ホセ・アントニオ・キロス)

審査員賞 : 「ブタがいた教室」(監督 前田 哲)

特別賞 : 「ミーアキャット」(監督 ジェームス・ハニーボーン)

(7) ニッポン・シネマ・クラシック

日本映画史上の不朽の名作を独自の切り口で特集して、その真価を見直すとともに、日本映画の新しいファン層と潜在観客層の掘り起こしを図る企画。今回は「不滅のスター競演—男優編—」であった。三國連太郎氏のトークが会場を沸かせた。

上映本数 7作品 動員数 510名

(8) animecs TIFF 2008

海外からも熱い注目を浴びている日本のアニメーション作家にスポットを当て、多様な作品を紹介する企画であるが、今年は生誕80周年を迎えた手塚治虫作品の特集を行なった。

上映本数 13作品 動員数 716名

(9) シネマ・ヴァイブレーション — 音楽と映画の共振関係

音楽と映画が共振する、シネマ・ヴァイブレーション。40代を迎えたミュージシャンにスポットを当てた「40歳問題」、若々しい勢いで疾走するMicroの「R134 Story カモミ

ールの羽」、そして老人たちが元気にロックを歌い上げる「ヤング@ハート」など、世代を超えたバラエティに富んだ企画が揃った。

上映本数 3作品 動員数 445名

(10) 東京ネットムービーフェスティバル 2008

インターネット上で実施する映画祭。一般部門では応募総数171作品の中から、予選を経て勝ち残った事務局推薦の10作品とユーザー投票で選出された5作品の計15作品が決勝に進出した。

〔共催企画〕

(11) 第5回文化庁映画週間

①「文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会」

優れた文化記録映画作品を顕彰する「文化庁映画賞」と、映画界に功績を残した映画人に贈る映画功労賞の授賞式と記念映画上映会を開催。

②「全国映画祭コンベンション」

住みたい街、行きたい映画館～コミュニティ、文化、映画について考える～をテーマに韓国新たな映画振興策を参考として、街づくりと映画の関係、その可能性を検討した。

③「全国フィルムコミッショナ・コンベンション」

「アニメーション meets ロケーション～風景、キャラクター、ストーリー～」
映画・テレビのロケーション支援活動を通して、地域からの情報発信を担うフィルムコミッショナの活性化をテーマとするセミナーである。

④「映画人の視点」

世界的に高い評価を得ている、日本映画界を代表する3人の監督、岩井俊二、黒沢清、滝田洋二郎の各氏を招き、トークと上映をオールナイトでとことん味わってもらう映画ファン必見の新企画である。

(12) みなと上映会

子供から大人まで、家族で楽しめるプログラムが毎年好評の「みなと上映会」も5回目を迎えた。今年は8作品のうちの6作品で、声優が映像に合わせてその場でセリフを吹き替えるボイスオーバー上映を実施、その臨場感に観客は酔いしれていた。

〔提携企画〕

(13) 東京国際女性映画祭

東京国際映画祭と同時にスタートした「女性映画祭」も21回を迎えた。発足当時、長編映画の監督を職業とする女性は皆無であった。近年は才能と実行力のある女性監督が次々に登場しているが、今後のさらなる飛躍に期待したい。今年も世界各国の女性映画が未来

への願いを込めて取り組んだ作品を紹介出来た。

(14) コリアン・シネマ・ウィーク 2008

最近では「韓流」と表現される通り、大衆文化から伝統文化まで、韓国文化への関心が高まっており、韓国文化は日本の地に着実に根を張っている感がある。今回もこの部門で、日本未公開の作品を多数上映し、その魅力を充分に味わってもらうことが出来た。

(15) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア「フォーカス オン アジア」

「ショートショートフィルムフェスティバル」(10周年)の兄弟映画祭である「ショートショート フェスティバル アジア」がスタートして5周年を迎えた。過去5回にわたり、普段見ることの出来ないアジアのショートフィルムを紹介し、日本の若手作家の作品を海外に紹介する役目を果たすことが出来た。今年は5周年を記念して、特にショートフィルム製作が盛んな韓国、台湾、インドネシア、シンガポール、中国、そして日本からの人気作を厳選して上映した。

(16) 2008 東京・中国映画週間

昨年に続き、「日中・文化スポーツ交流年」の認定事業として、また、「日中平和友好条約締結30年」記念「日中青少年友好交流年」にあたる今年、現代の中国を映し出した最新作や話題作を上映した。各作品の上映時には作品ゲストの舞台挨拶があり、大勢の中国映画ファンで賑わった。

(17) 第1回したまちコメディ映画祭 1n 台東 11月21日(金)~11月24日(月)

首都圏の映画祭にはない住民参加の映画祭を目指し、喜劇発祥の地であり、今なお古き良き庶民文化が脈々と引継がれている「浅草」と、多様な文化施設を擁し文化芸術の街として栄えている「上野」、台東区内の二つの地域を主会場に、東京の下町から全世界に向けて新しい時代の笑いを発信することを目的とした。

(18) ドイツ映画祭 2008 10月31日(金)~11月3日(月)

日本ロケを行なったドリス・デリエ監督の「HANAMI」他6本の新作ドイツ映画を上映するとともに、オールドファンに人気の高いサイレント映画「カリガリ博士」「巨人ゴーレム」の2本を生演奏付で上映した。

(19) GTF トーキョーシネマショー 2008 8月28日(木)~8月30日(土)

初日は配給会社30社による作品プレゼンテーションと、第4回「筑紫賞:ゴールデンタイトル・アワード」の授賞式とシネマトークショウが行なわれた。2~3日目は新作の試写会が行なわれ、副音声付試写が好評であった。

(20) その他の特別上映

- ①「羅生門」 映画史に残る黒澤明の不朽の名作を、復元上映したもの。
- ②「そのまま木戸を通って」 故市川崑監督の劇場未公開となっていた長編ハイビジョンドラマ。
- ③「男はつらいよ 口笛を吹く寅次郎」 寅さん第1作公開40年、渥美清生誕80年を記念して人気シリーズ32作目にあたる本作を上映した。
- ④「The Audition ~メトロポリタン歌劇場の扉~」
世界オペラの最高峰 NY メトロポリタン歌劇場のオーディションをドキュメントしたもの。
- ⑤「宝塚歌劇雪組公演ショー ~ソロモンの指輪~」
宝塚歌劇の華やかな舞台を、映画館の大スクリーンで楽しんでいただく「タカラヅカ レビュー シネマ」の第一弾。

[顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの優秀作品に対する顕彰（最優秀アジア映画賞）
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画・ある視点 作品賞、特別賞）
- ④ Natural TIFF 部門の優秀作品に対する顕彰
(TOYOTA Earth Grand Prix、審査員賞、特別賞)
- ⑤ 世界の映画界で顕著な功績を挙げている個人に対する顕彰
黒澤明賞 受賞者 ニキータ・ミハルコフ (ロシア／監督)
チェン・カイコー (中国／監督)

【 その他 】

① 能楽鑑賞会 (主催: 渋谷区)

期 間 : 平成 20 年 10 月 24 日 (金)

会 場 : 国立能楽堂 (千駄ヶ谷)

第 21 回東京国際映画祭公式行事として、渋谷区を訪れる外国の人々に、日本の伝統文化を紹介し、併せて渋谷区民において国際交流と日本文化に親しむ機会を、という趣旨で能楽鑑賞の夕べが催され、桑原敏武渋谷区長が国際交流や理解を深める事業を積極的に推進している渋谷区を代表して挨拶された。

【 運営 】

① 自主企画の実施

本年度は、例年行われている「コンペティション」「特別招待作品」「アジアの風」及び「日本映画・ある視点」「WORLD CINEMA」の各部門に加え、新部門として「natural TIFF」を実施した。

② 上映会場、各種会場

本年も六本木と渋谷をメイン会場とした。

主要上映会場 : TOHO シネマズ六本木ヒルズ (9 スクリーン)

シネマート六本木 (1 スクリーン)

渋谷 Bunkamura (オーチャードホール、シアター・コクーン、
ル・シネマ 1・2)

その他会場 (提携企画を上映) :

東京ウィメンズプラザ、よみうりホール、草月ホール、

東京都写真美術館、シネマメディアージュ、新宿パルト 9、浅草公会堂、

祇園会館、明治神宮会館、秋葉原 UDX、東商ホール

また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

○ グランドハイアット東京 : オープニング・レセプション、グリーンタイ晚餐会の会場として使用

○ アカデミーヒルズ : 49 階 (TIFF 事務局、各種取材・会見、各種セミナー等実施)

40 階 (TIFFCOM 及び TCM のマーケット)

2 階 (レジストレーションデスク、及び、ID カウンター)

3 階 (プレス・インフォメーション、プレス・センター)

○ ヒルズカフェ : TIFF ムービーカフェとして使用

○ 六本木ヒルズ 大屋根プラザ : グリーン・カーペット・エリアとして使用

○ 六本木ヒルズ アリーナ : TIFF Park として様々なイベントを実施

○ 六本木ヒルズ 66 プラザ : TIFF 公式カー「IQ」の展示等実施

○ 渋谷 Bunkamura ギャラリー : 渋谷事務局を設置

○ 渋谷 Bunkamura ロビーラウンジ : クロージング「感謝の夕べ」会場として使用

③ 入場料金

○ オープニング作品	1,800 円
○ クロージング作品	2,200 円／1,800 円
○ コンペティション	1,000 円／2,000 円
○ 特別招待作品	1,800 円
○ 特別上映	1,000 円／1,300 円
○ アジアの風	1,300 円
○ 日本映画・ある視点	1,300 円
○ ワールド・シネマ	1,300 円
○ ナチュラル・ティフ	1,300 円／1,000 円
○ animecs TIFF 2008	1,000 円
○ シネマ・ヴァイブレーション	1,300 円
○ ニッポン・シネマ・クラシック	1,000 円
○ みなと上映会	1,000 円
○ 映画人の視点 Director's Angle	2,000 円
○ 東京女性映画祭	1,000 円

④ 会期中のイベント

(けやき坂)

○ オープニング・グリーンカーペット

東京国際映画祭の顔とも言えるオープニング当日（10月18日）のカーペット・ウェルカム・イベント。

今年より、TIFF のコンセプトにある「環境・エコロジー」を体現するため、日本コカコーラ㈱と帝人㈱の協力により、18,000 本のペットボトルを再生利用したグリーンカーペットの敷設を行なった。

沿道を埋めた3,700 人の映画ファンが注目する中を、麻生太郎内閣総理大臣をはじめとする内外からの沢山のゲストやオープニング作品『レッドクリフ Part I』の出演俳優、など、数多くの作品ゲストが次々と、けやき坂に特設されたグリーンカーペットの上を歩きながらセレモニー会場に入場した。

(六本木ヒルズアリーナ)

会期中、TIFF park と称して、様々なイベントを実施。

○ オープニングイベント：グリーンカーペットからの流れで作品ゲストが舞台に登壇、挨拶

○ 配給会社作品イベント：『ラブファイト』（東映）、『櫻の園・さくらのその・』（松竹）、『余命』（スターダストピクチャーズ）、『R134STORY カモミールの羽』で実施

○ 宝塚歌劇雪組公演ショー「ソロモンの指輪」：映画祭出品作品関連

○ くものすカルテットライブ：映画祭出品作品関連

○ 日本映画・ある視点トークイベント：大東俊介（『旅立ち 足寄より』主演）、深作健太監督（『斬～KILL』監督）

○ TIFF Special Night：平原綾香ライブ＆グリーン・トーク

○ JLMライブ：ロケーション・マーケット ステージイベント

○ 屋台村（キッチンカー）など

(TIFF movie cafe)

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェを TIFF ムービーカフェと称し、様々な企画を行った。

- コンペ作品記者会見、日本映画・ある視点作品の公開取材、各種パーティー
- ハッピー・ムービー・アワー：映画音楽の生演奏
(グリーン・カーペット・エリア)
大屋根プラザをグリーン・カーペット・エリアと称し、映画とエコロジーをつなぐ空間を創出した。
- ⑤ インフォメーション・ブースの設置
六本木はTIFF ムービーカフェ前、渋谷はハチ公前、及び、東急本店前にて実施。広く一般の皆様に映画祭を認知していただく意味でも効果があった。
- ⑥ デイリーニュースの発行
会期中、日々、行われる映画祭の最新レポートが載ったデイリーニュース（タブロイド版）をインフォメーション・ブース等で配布。ホットニュースをいち早く映画ファン、関係者に告知することが出来た。最終日の号外（受賞作品の速報）は今年も実施。好評であった。
- ⑦ ボランティアスタッフの採用
映画祭WEBサイト上で募集したボランティアの方々には今年も上記インフォ・ブースでの映画祭の宣伝告知や案内を初め、様々なところで活躍してもらった。また、今年も映像関係の専門学校生をインターンという形で入ってもらうことも部分的に導入したが、好評であった。
- ⑧ オリジナルグッズの販売
オフィシャルグッズとして、DVD ケース、レターセット、エコバッグ、Tシャツを作成した。

【 広報活動 】

- ① 新聞広告 読売新聞、朝日新聞、毎日新聞
- ② 劇場予告 首都圏の主要劇場 7月下旬／特報、9月下旬／本予告
- ③ パブリシティ テレビ番組での特集放送、映画専門誌への特集掲載、WEB ポータルサイトへの特集掲載など。
一般紙、スポーツ紙・・・新聞合計：1,071
映画専門誌、情報誌他・・・紙媒体合計：506
NHK、民放全局、BS、CS 局他・・・電波媒体合計：168
ネット媒体合計：1,427
海外媒体合計：397
パブリシティ合計：3,569 媒体
- 映画祭会期中は、劇場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応。
- ④ 宣伝素材 ティザーチラシ（7月上旬）、チラシ（全上映スケジュール入り）、
公式プログラム、公式記録、ポスター2種類、
デイリーニュース（クロージングの号外を含め、10回発行）
- ⑤ Cyber TIFF 映画祭の動画配信プロジェクト
公式WEB及びモバイルサイトでの動画配信を通して、映画祭の最新情報を発信する
と共に、CS放送局「ムービープラス」やNTTのIPTV「ひかりTV」と組み、オープ

ニングのグリーンカーペットの模様を中継放送。その他、事前番組、特集等で映画祭をサポートしている。

⑥ イメージネット

映画祭の出品作品の素材を提供しているサービス。登録者であれば、誰でもアクセスでき写真等が取り込める。また情報発信のツールとしても活用。

⑦ プレス ID

東京映画祭記者クラブ、日本映画記者クラブに所属の方々にスペシャルパスを発行。またプレス ID 登録者へは、一斉メールにて映画祭の情報を発信。

⑧ 記者会見

- ラインアップ発表記者会見 2008年9月18日 六本木ヒルズ・タワーホール
- 会期中の記者会見（六本木ヒルズ・ムービーカフェ、文化村リハーサル室）

【 東京国際映画祭地区委員会の活動 】

① 渋谷地区委員会

渋谷地区委員会、渋谷区、渋谷警察署、渋谷消防署、地区委員会の加盟各商店街、大型店などの協力により、華やかに街の演出と装飾を実施した。

○ 街路灯フラッグの掲出 道玄坂商店街 他 10 商店街各通り

2008年10月13日（月）～10月26日（日）

○ 大型店の壁面懸垂幕 東急本店・東横店、シブヤ西武、高島屋 他

2008年10月13日（月）～10月26日（日）

○ 特別イベントの開催 「ゴスペル・ライブ」

ドウ マゴ パリ、オープントラス

2008年10月24日（金）16：30 開演

○ 交通広告の掲出 JR 山手線、東急全線、京王線、京王井の頭線、

及び東京メトロ銀座線 計 6,220 枚

2008年10月13日（月）～10月26日（日）

○ ハチ公像のタスキ掛け、渋谷駅地下鉄入り口タイトル掲出

○ インフォメーション・ブース設置 東急東横店ハチ公側及び東急本店正面口

2008年10月18日（土）～10月26日（日）

○ 渋谷地区委員会の開催 第1回；2008年7月25日（金）

第2回；2008年9月26日（金）

第3回；2008年11月13日（木）

③ みなと委員会

港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、港区内の商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会。会期前から映画祭の会期を通じて、会場周辺や区内の各所で映画祭を盛り上げるさまざまな活動を展開した。

○ みなと上映会 家族を対象とした上映会の開催

(TOHOシネマズ六本木ヒルズ、六本木ヒルズ・アリーナ)

2008年10月18日（土）、25日（土）

- 観客賞 観客が自由に選ぶコンペ作品の賞（賞金 1 万米ドル）
- 街頭フラッグの掲出 けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街 計 273 枚
2008 年 10 月 11 日（土）～10 月 28 日（日）
- クリーンナップ・プロジェクト 六本木会場周辺の街頭清掃作業
港区の武井区長、依田シェアマン他 約 280 名
2008 年 10 月 11 日（土）午前 9 時 30 分開始
- オリジナル・パンフレットの作成 港区内全戸新聞折込、主要駅、公共施設での配布
計 155,000 枚

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

- 地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- メトロハット 特設幕、ポスターボード 他
- 66 プラザ 水景、ポスターボード、柱面特設シート
- ウエストウォーク コルトン、バナー 他
- けやき坂コンプレックス 吊り下げバナー
- ヒルサイド 壁面、バナー 他

2. 国際振興支援事業

【 映画祭出品支援事業 】

海外映画祭・映画見本市への出品支援「日本映画海外展開支援」

(1) 事業の位置づけ

文化庁「海外映画祭出品等支援事業」の業務委託を受けて、平成15年度から始まった事業である。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督作品まで、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本の映像コンテンツを支援対象としている。

(2) 事業の目的

海外の映画祭・映画見本市に参加する日本映画、映画製作への出品経費、渡航経費支援を行なうことで日本映画の映画祭参加を促進し、日本映画のプレゼンスを世界にアピールすることを目的とする。

(3) 事業の概要

①支援内容：

- ・外国語字幕制作費の支援
- ・渡航費の支援
- ・宣伝制作物の支援

②支援枠：

- ・映画祭・映画見本市参加への一般枠
- ・指定映画祭参加作品への優先枠（カンヌ、ベネチア、ベルリンなど主要映画祭）
- ・若手映画製作への特別枠

(4) 平成20年度支援実績

- ・総採択数 79件（平成19年度実績 99件）
- ・総申請件数 261件（同 219件）
- ・支援総額 32,307,586円（同 49,783,424円）
- ・主な支援作品 モントリオール世界映画祭グランプリ / 米アカデミー賞最優秀外国語映画賞受賞 『おりびと』（滝田洋二郎監督）、
ベネチア国際映画祭公式出品『アキレスと亀』（北野武監督）、
ベネチア国際映画祭公式出品『崖の上のポニョ』（宮崎駿監督）
ベネチア国際映画祭公式出品『スカイ・クロラ』（押井守監督）
サンセバスチャン国際映画祭 / マルデルプラタ国際映画祭グランプリ受賞 『歩いても歩いても』（是枝裕和監督）

【 映画祭出展支援事業 】

主要映画祭での広報・セールス拠点「ジャパンベース」の出展

(1) 事業の位置づけ

上記事業と同じく、文化庁「海外映画祭出品等支援事業」の業務委託を受けて、平成15年度から始まった事業である。平成17年からは、経済産業省、文化庁、ジェトロと

の共同運営となり、場所により現地日本大使館、国際交流基金、VIPO（映像産業振興機構）の協力を得るなど「オールジャパン」体制によって実施されている。

（2）事業の目的

海外の主要映画祭において日本映画情報センターとして「ジャパンパビリオン」や「ジャパンブース」を出展、日本映画のセールス会社にスペースを提供することで、日本映画の海外広報、海外映画祭上映に止まらず日本映画の海外配給を促進することを目的とする。

（3）事業の概要

①カンヌ映画祭「ジャパンブース」（平成 20 年 5 月 14 日～23 日）

- ・カンヌ映画祭見本市（マルシェ）会場内に「ジャパンブース」を出展（セールス会社 9 社参加）

②トロント映画祭「アジアデスク」（平成 20 年 9 月 4 日～13 日）

- ・トロント映画祭インダストリーセンター内に、韓国映画振興委員会（KOFIC）と共同で「アジアデスク」を出展、日本からの公式上映 8 作品のセールス活動に協力
- ・国際交流基金トロント日本文化センターにて「アジア映画レセプション」を開催（9 月 9 日）。国際交流基金、ジェトロ、ユニジャパン、KOFIC が共催

③プサン映画祭「ジャパンブース」（平成 20 年 10 月 3 日～6 日）

- ・見本市（アジア・フィルム・マーケット）会場内に「ジャパンブース」を出展（セールス会社 6 社参加）
- ・映画祭公式ホテルにて「ジャパンレセプション」を、VIPO との共催で実施

④ベルリン映画祭「ジャパンパビリオン」（平成 21 年 2 月 5 日～15 日）

- ・見本市（ヨーロピアン・フィルム・マーケット）会場内に「ジャパンパビリオン」を出展（セールス会社 8 社参加）

⑤香港映画祭「ジャパンパビリオン」（平成 21 年 3 月 23 日～26 日）

- ・見本市（香港フィルマート）会場内に「ジャパンパビリオン」を出展（セールス会社 11 社参加）

【国際共同製作支援事業】

日本の映画製作者を対象にした国際共同製作支援「J-Pitch」

（1）事業の位置づけ

経済産業省「コンテンツ国際共同製作基盤整備事業」の業務委託を受けて、平成 18 年度から始まった事業である。

（2）事業の目的

完成した映画を海外市場に出すのではなく、企画段階から海外の出資を募るという、海外市場を視野に入れた映画製作を推進し、映画製作のリスク軽減と日本映画の新しい市場開拓を目的とする。

(3) 事業の概要

① 日本映画製作者の海外派遣

海外の主要な映画祭において実施される「企画マーケット」に、日本映画製作者を派遣し国際的なネットワーキングの機会を提供。参加マーケットとして、J-Pitch では以下の国際映画祭とパートナー契約を交わした。

J-Pitch パートナーとなる映画祭企画マーケット：

- ・カンヌ国際映画祭「プロデューサーズ・ネットワーク」(5月)／派遣：6名
- ・上海国際映画祭「コ・プロダクション ピッチ＆キヤッチ」(6月)／派遣：3名
- ・パリ国際映画祭「パリス・プロジェクト」(7月)／派遣：5名
- ・トロント国際映画祭「インターナショナル・フィナンシング・フォーラム」
(9月／派遣：5名)
- ・プサン国際映画祭「プサン・プロモーション・プラン (PPP)」(10月)／派遣：5名
- ・ロッテルダム国際映画祭「シネマート」(1月)／派遣：3名
- ・ベルリン国際映画祭「コ・プロダクション・マーケット」(2月)／派遣：4名
- ・香港国際映画祭「香港アジア・フィルム・ファイナンス・フォーラム (HAF)」(3月)
／派遣：4名

② 企画開発ワークショップ

- ・海外において映画企画をプレゼンテーションするために必要な素材や情報、知識、ノウハウを、日本映画製作者に提供する。
- ・公募により5企画を選出。年間を通して専門家より、脚本開発、法務などのアドバイスを提供
- ・参加企画の内、1企画が10月に開催されたプサン映画祭 PPP に招待され、最優秀賞を受賞。別の1企画も、2月の Co-production Market に参加し、ドイツの共同プロデューサーと共同開発の契約を締結

(4) 平成20年度の実績（完成し公開された作品）

『トウキョウソナタ』(黒沢清監督、日本・オランダ・香港合作)

- ・プロデューサー：木藤幸江 (Entertainment FARM)

- ・カンヌ国際映画祭審査員特別賞受賞

『闘茶』(ワン・イエミン監督、日本・台湾合作)

- ・プロデューサー：オノコースケ (ピクニック)

- ・カイロ国際映画祭コンペティション部門公式招待

『しあわせのかおり』(三原光尋監督、日本・中国合作)

- ・プロデューサー：三木和史 (ビデオプランニング)

- ・上海国際映画祭特別招待作品

3. 情報発信事業

日本映画の海外への情報発信

(1) 日本映画ウェブサイト「www.unijapan.org」の運営

日本自転車振興会の補助を受け、本財団の自主事業として平成15年より継続。

①内容：ユニジャパンの事業案内、映画関連ニュース、国内外の映画産業情報、映画祭情報、映画支援情報を掲載、また日本映画データベース（JFDB）、J·Pitch 公式サイト、東京国際映画祭公式サイトともリンクすることでサイトのコンテンツ充実を図った。

②広報：ウェブサイトの認知をより海外に広げるために、カンヌ国際映画祭、香港国際映画祭にて発行の「Screen International」誌に広告を掲載

(2) 海外向け日本映画年鑑「Japanese Film 2009」の出版

1974年（昭和49年）より継続している海外向け日本映画年鑑。文化庁「芸術活動基盤充実事業」の業務委託を受けて、編集・発行・配布を行った（平成21年3月、3000部発行）。掲載内容は以下のとおり。

①掲載作品：

2008年1月～12月に劇場公開された日本映画の内、主要な76作品を選んで日本語・英語併記で紹介

選考基準は以下の3点

- ・興行収入ランキング上位作品
- ・国内での主要な映画賞受賞作品
- ・海外での主要な映画祭招待作品

②2008年日本映画産業統計（日本映画製作者連盟、外国映画輸入配給協会提供）

興行収入10億円以上の日本映画、映画公開本数、入場者数、平均入場料金、興行収入、スクリーン数、外国映画公開本数

③日本映画関連団体・企業連絡先一覧

項目	掲載社数
映画・映像関連団体	32 (31)
映画製作会社	138 (111)
アニメーション製作会社	31 (27)
映画配給会社	93 (70)
セールス会社	7 (3)
ファンド会社	4 (5)
フィルム・コミッショナ	103 (100)
映画祭(国内)	25 (25)
映画学校	24 (25)
現像所・映画機材他	28 (17)

*掲載の承諾が確認できた団体・企業を掲載。

*（ ）内の数字は平成20年度のもの

④配布：

国内：文化庁及び関係官庁、在日外国公館、情報提供を受けた団体及び企業、東京国際映画祭

海外：カンヌ、トロント、ブサン、AFM（ロサンゼルス）、ベルリン、香港など主要

映画祭及び見本市、在外公館、国際交流基金海外事務所、ジェトロ海外事務所

(3) 海外向け新作日本映画カタログ「New Cinema from Japan」(NCJ)の出版

国際交流基金との共同事業として、平成15年度より継続して発行。「Japanese Film」が前年に公開された日本映画を紹介する年鑑として出版されるのに対して、「New Cinema from Japan」(NCJ)は未公開作を含む新作を紹介する日本映画カタログであり、作品掲載は有料（1作品5万円、追加作品は1作品につき2万円）。国内外の映画関係者よりセールスツールとして活用されている。

①発行：

- ・5月と10月の年2回、各4000部発行
- ・2008年春号（5月発行） 16社49作品を紹介
- ・2009年秋号（10月発行） 22社44作品を紹介

②配布先は「Japanese Film」と同じ

(4) J-Pitch 公式サイトと日本映画データベース（JFDB）

J-Pitch事業の広報サイトとして、活動報告、共同製作支援情報を掲載。また、日本映画データベース（JFDB）ともリンクし、2002年以降の劇場公開日本映画情報を日英バイリンガルで海外に発信している。データの収集能力も向上し、2008年は、全公開作品の約9割に当たる372本の作品データを掲載した。

公開年	掲載作品数
2002年	40件
2003年	118件
2004年	138件
2005年	117件
2006年	223件
2007年	289件
2008年	372件
合計	1,297件

4. 調査研究事業

国際的なネットワークの構築と日本映画製作者への海外映画産業情報の提供

(1) 国際ネットワーク構築の推進

J-Pitch事業の一環として、世界主要国の映画支援機関とのネットワーク構築を進めると共に以下の調査を実施し、レポートをJ-Pitch公式サイトに掲載

①各国協力機関

- ・ European Audio-Visual Observatory（欧州連合）

- ・ UK Film Council (英国)
- ・ CNC、Film France (フランス)
- ・ Korean Film Council (韓国)
- ・ Federation of National Film Associations of Thailand (タイ)
- ・ Singapore Film Commission (シンガポール)
- ・ New Zealand Film Commission (ニュージーランド)
- ・ Screen Australia (オーストラリア)
- ・ Telefilm Canada (カナダ)

②調査内容

- ・ 各国映画産業概要
- ・ 映画支援制度
- ・ 国際共同製作のシステムと映画国籍の定義

③海外向け日本映画産業ガイドブックの編集、発行と J·Pitch 公式サイトへの掲載

- ・ 海外の映画製作者、映画支援機関を対象とした、英文ガイド「The Guide to Japanese Film Industry & Co-production」を 2000 部発行
- ・ 5 月のカンヌ映画祭にて配布開始予定の他、J·Pitch 公式サイトにも掲載
- ・ 制作協力：キネマ旬報映画総合研究所

(2) ニュースレターの発行

同じく、J·Pitch 事業の一環として実施。映画祭やマーケット情報を必要とする映画製作者、各社セールス担当者にニュースレター「ユニジャパン通信」を隔週で発行。映画祭及びマーケット開催情報、エントリー情報の他に日本映画の出品状況・受賞実績なども掲載して、世界の動向を伝える。またこの通信は本財団のウェブサイトにも転載し、より広く情報提供を行なっている。

エントリー情報を掲載した海外映画祭及びマーケットの数は以下の通り。

開 催 地 域	掲載映画祭数
ヨーロッパ	101 件 (198 件)
南北アメリカ	131 件 (154 件)
中近東アフリカ	119 件 (117 件)
アジア太平洋	28 件 (36 件)
合 計	169 件 (195 件)

※ () 内の数字は、平成 19 年度のもの。

(3) 第 5 回文化庁映画週間 (平成 20 年 10 月 18 日～24 日、六本木ヒルズ他)

第 21 回東京国際映画祭開催に合わせて、文化庁の業務委託事業として実施。内容は以下のとおり。

① 平成 20 年度 (第 6 回) 文化庁映画賞贈呈式及び受賞記念上映会 :

- ・ 文化記録映画部門受賞作品 :

文化記録映画大賞『緑の海平線～台湾少年工の物語』(監督: 郭 亮吟)

文化記録映画優秀賞『オオカミの護符一里びとと山びとのあわいにー』(監督: 由井 英)、
『十歳のきみへ いのちの授業』(監督: 今泉文子)

・映画功労表彰部門受賞者：

井上章（映画美術）、岩木保夫（映画照明）、長田千鶴子（映画編集）、佐々木史郎（映画企画）、萩原憲治（映画撮影）

② 第5回全国映画祭コンベンション：

・「住みたい街、行きたい映画館～コミュニティ、文化、映画について考える～」
中心市街地再生の手段としての映画館建設の事例と韓国の上映支援政策を紹介

③ 第6回全国フィルムコミッショナ・コンベンション：

・「アニメーション meets ロケーション～風景、キャラクター、ストーリー～」

講演：原 恵一（アニメーション監督）他

アニメーションの制作過程において、シナハシ、ロケハンはどのように行われているか。フィルムコミッショナ活動の新しい接点を探る。（ジャパン・ロケーション・マーケット 2007 共同企画）

②「映画人の視点」：

・「岩井俊二の世界～好きなことをやって生きていく」

出演：岩井俊二（映画監督）他、モデレーター：河井真也（プロデューサー）

・「黒沢 清の世界～黒沢映画は進化する」

出演：黒沢 清（映画監督）他、モデレーター：小林淳一（雑誌編集長）

・「滝田洋二郎の世界～映画の匠」

出演：滝田洋二郎（映画監督）他、モデレーター：河井真也（プロデューサー）

（4）ジャパン・ロケーション・マーケット 2008 (JLM2008)

（平成 20 年 10 月 21 日～24 日、六本木ヒルズ）

第 21 回東京国際映画祭開催に合わせて、経済産業省の業務委託事業として株式会社コムブリッジと共同で実施。内容は以下のとおり。

①JLM セミナー：「ジャパン・フィルムコミッショナ (JFC) 設立発表会」

・登壇者： 寺脇 研（京都造形芸術大学教授）

田中まこ（全国フィルムコミッショナ連絡協議会副会長）

前澤哲爾（全国フィルムコミッショナ連絡協議会専務理事）

吉崎正弘（経済産業省大臣官房審議官）

清木孝悦（文化庁文化部長）

西阪 昇（観光庁審議官）

アジア・プロデューサーズ・ネットワーク参加映画製作

②JLM ライブステージ：地域を舞台にした新作映画の発表イベント

③JLM 交流会：地域での映像事業者及び自治体関係者と国内外の映画・映像コンテンツ製作との交流を目的として実施

④第6回全国フィルムコミッショナ・コンベンション（文化庁映画週間共同企画）

・内容は、上記「文化庁映画週間」参照

(5) ベルリン国際映画祭タレントキャンパスへの派遣

平成 15 年度より当財団の自主事業として実施。平成 21 年 2 月に開催された「ベルリン国際映画祭タレントキャンパス」(若手映画製作者を対象としたワークショップ) に、3 名の日本人若手映画製作者を派遣した。

(5) コンテンツマーケット事業

【TIFFCOM2008 ~アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット~】

東京国際映画祭併設のコンテンツ・ビジネスマーケットとして、シンポジウム、セミナー等も開催し、コンテンツの国際取引から国際共同製作まで、ビジネスの海外展開をサポートした。

合計参加数 19, 843人

①「TIFFCOM (コンテンツマーケット)」

第5回を迎える、22ヶ国より、過去最高となる201の出展数となった。出展者、来場者、成約金額全てにおいて右肩上がりに成長してきたが、5年目という節目にふさわしく、43カ国からのセラー、バイヤー、プロデューサー等インダストリー関係者が来場した。

主催：経済産業省／財団法人日本映像国際振興協会／日本映像振興株式会社

共催：第21回東京国際映画祭

連携企画：国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2008

期日：平成20年10月22日（水）～23日（金）

会場：＜展示会場＞六本木ヒルズ森タワー、六本木アカデミーヒルズ40

＜スクリーニング会場＞六本木アカデミーヒルズ49、TOHO シネマズ六本木ヒルズ スクリーン4

②「Tokyo Project Gathering(TPG)」

映画・テレビ・アニメ等の国際共同製作・出資を推進するTPGへ、25の国と地域から117企画が集まった。34の選出企画の出品者が、プロデューサー、投資家、芸能プロダクションらとミーティングを行い、マーケットは活況を呈した。

主催：経済産業省／財団法人日本映像国際振興協会／日本映像振興株式会社

共催：第21回東京国際映画祭

期日：平成20年10月22日（水）～24日（金）

会場：六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリียม

II. [処務の概要]

1. 役員に関する事項

(平成21年3月31日現在)

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	過去の本法人 理事就任期間
理事長	高井 英幸	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日	非常勤	無	東宝株式会社 代表取締役社長	平成15年6月21日～ 平成19年6月28日
理事	井上 弘	〃	〃	〃	株式会社東京放送 代表取締役社長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	氏家 齊一郎	〃	〃	〃	日本テレビ放送網株式会社 代表取締役取締役会議長	平成11年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	岡田 茂	〃	〃	〃	東映株式会社 名誉会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	大蔵 滉彦	〃	〃	〃	全国興行生活衛生同業組合連合会 会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	大谷 信義	〃	〃	〃	社団法人日本映画製作者連盟 会長	平成10年6月22日～ 平成19年6月28日
〃	小倉 和夫	〃	〃	〃	独立行政法人国際交流基金 理事長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	相賀 昌弘	〃	〃	〃	株式会社小学館 代表取締役社長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	角川 歴彦	〃	〃	〃	株式会社角川グループホールディングス 代表取締役会長兼CEO	平成11年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	上條 清文	〃	〃	〃	東京急行電鉄株式会社 代表取締役会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	迫本 淳一	〃	〃	〃	特定非営利活動法人映像産業振興機構 理事長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	崔 洋一	〃	〃	〃	協同組合日本映画監督協会 理事長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	佐藤 直樹	〃	〃	〃	日活株式会社 代表取締役社長	平成18年3月27日～ 平成19年6月28日
〃	島田 昌幸	〃	〃	〃	株式会社テレビ東京 代表取締役社長	
〃	高岩 淡	〃	〃	〃	東映株式会社 取締役相談役	平成 7年4月2日～ 平成19年6月28日
〃	和田 洋一	〃	〃	〃	社団法人コンピュータエンターテインメント協会 会長	
〃	遠山 敏子	〃	〃	〃	財團法人新国立劇場運営財団 理事長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	福地 茂雄	平成20年3月31日～ 平成21年6月28日	〃	〃	日本放送協会 会長	
〃	廣瀬 道貞	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日	〃	〃	株式会社テレビ朝日 代表取締役会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	藤井 宏昭	〃	非常勤	無	森アーツセンター 理事長	平成18年3月27日～ 平成19年6月28日
〃	俣木 盾夫	〃	〃	〃	株式会社電通 代表取締役会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	松岡 功	〃	〃	〃	社団法人映画産業団体連合会 会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	松谷 孝征	〃	〃	〃	有限責任中間法人日本動画協会 理事長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	豊田 哲		非常勤	無	株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長	

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	過去の本法人 理事就任期間
〃	依田 翼	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日	〃	〃	社団法人日本経済団体連合会 エンターテインメント・コンテンツ 産業部会 会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	林 康夫	〃	〃	〃	独立行政法人日本貿易振興機構 理事長	
監事	岡田 剛	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日	〃	〃	東映株式会社 代表取締役社長	平成17年4月1日～ 平成19年6月28日
〃	濱野 保樹	〃	〃	〃	東京大学大学院 教授	平成17年4月1日～ 平成19年6月28日

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	備 考
評議員	岡田 正代	平成21年4月1日～ 平成23年3月31日	非常勤	無	財団法人川喜多記念映画文化財団 理事長	
〃	井上 泰一	〃	〃	〃	角川映画株式会社 代表取締役社長	
〃	加藤 正人	〃	〃	〃	社団法人日本シナリオ作家協会 会長	
〃	兼松 熙太郎	〃	〃	〃	協同組合日本映画撮影監督協会 理事長	
〃	後藤 直	〃	〃	〃	株式会社エフエム東京 代表取締役会長	
〃	古森 重隆	〃	〃	〃	富士フィルム株式会社 代表取締役社長CEO	
〃	佐藤 進	〃	〃	〃	株式会社東急レクリエーション 取締役相談役	
〃	佐藤 孝	〃	〃	〃	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ 代表取締役社長	
〃	佐藤 忠男	〃	〃	〃	映画評論家	
〃	佐野 哲章	〃	〃	〃	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 映画部門 日本代表	
〃	品田 雄吉	〃	〃	〃	映画評論家	
〃	新藤 次郎	〃	〃	〃	協同組合日本映画製作者協会 代表理事	
〃	杉田 成道	〃	〃	〃	協同組合日本映画テレビプロデューサー協会 会長	
〃	鈴木 常承	〃	〃	〃	日本フィルムラボ協会 理事	
〃	高野 悅子	〃	〃	〃	岩波ホール 総支配人	
〃	塙田 芳夫	〃	〃	〃	社団法人映像文化制作者連盟 副会長	
〃	富山 省吾	〃	〃	〃	日本アカデミー賞協会 事務局長	
〃	林田 洋	〃	〃	〃	株式会社東北新社 代表取締役社長	
〃	原 正人	〃	〃	〃	アスミック・エース エンタテインメント株式会社 相談役	
〃	松岡 宏泰		〃	〃	東宝東和株式会社 代表取締役社長	

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	過去の本法人 理事就任期間
〃	矢内 廣	平成21年4月1日～ 平成23年3月31日	〃	〃	びあ株式会社 代表取締役会長兼社長	

2. 役員会等に関する事項

理 事 会

開会年月日	議 事 事 項	議の結果
平成 20 年 6 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員 1 名選任の件 ・ 平成 19 年度財団事業報告及び収支決算承認の件 ・ 平成 20 年度収支予算の一部変更の件 ・ 財団役員・法人間取引の承認の件 ・ 公益法人制度改革に伴う新制度公益財団法人移行の件 	承認 // // // // //
平成 21 年 3 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員の任期満了に伴う評議員選任の件 ・ 平成 21 年度事業計画案及び収支予算案の承認の件 ・ 第 21 回東京国際映画祭実行委員会の解散 並びに第 22 回東京国際映画祭実行委員会の設置の件 ・ 第 22 回東京国際映画祭実行委員会の委員選任の件 ・ 第 22 回東京国際映画祭の会場の件 ・ 新制度公益財団法人における最初の評議員の選任方法の件 ・ 財団諸規程の改訂及び新設の件 ・ 事務局長の任免 (=辞任に伴う理事 1 名減員) の件 	承認 // // // // // // // //

評議員会

開会年月日	議 事 事 項	議の結果
平成 20 年 6 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 19 年度財団事業報告及び収支決算承認の件 ・ 平成 20 年度収支予算の一部変更の件 ・ 財団役員・法人間取引の承認の件 ・ 公益法人制度改革に伴う新制度公益財団法人移行の件 	承認 // // //
平成 21 年 3 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員の任期満了に伴う評議員選任の件 ・ 平成 21 年度事業計画案及び収支予算案の承認の件 ・ 第 21 回東京国際映画祭実行委員会の解散 並びに第 22 回東京国際映画祭実行委員会の設置の件 ・ 第 22 回東京国際映画祭実行委員会の委員選任の件 ・ 第 22 回東京国際映画祭の会場の件 ・ 新制度公益財団法人における最初の評議員の選任方法の件 ・ 財団諸規程の改訂及び新設の件 ・ 事務局長の任免 (=辞任に伴う理事 1 名減員) の件 	承認 // // // // // // // //

3. 寄附金に関する事項

平成21年3月31日現在

(単位:千円)

寄附の目的	寄附者	寄附金額	受領日	備考
国際映画祭 開催費用	東京急行電鉄㈱	30,000	平成20年 9月30日	
	㈱ティーワイリミテッド	22,000	平成20年11月 7日	
	松竹㈱	9,000	平成20年 9月10日	
	東宝㈱	9,000	平成20年 9月30日	
	東映㈱	9,000	平成20年 9月30日	
	角川映画㈱	9,000	平成20年 8月25日	
	日活㈱	9,000	平成20年10月 3日	
	富士フィルム㈱	3,000	平成20年 9月25日	
	㈱角川グループホールディングス	2,000	平成21年 1月30日	
	㈱ぴあ	2,000	平成20年12月11日	
	東京電力㈱	500	平成20年10月31日	
	(社)映画文化協会	1,000	平成20年 8月29日	
	村山創太郎	5,000	平成20年10月20日	
	合 計	110,500		

4. 賛助会費に関する事項

(年会費 1口 50万円)

目的	会員氏名	口数	会員氏名	口数
	松竹㈱	6	㈱東北新社	4
	東宝㈱	6	アスミック・エースエンタテインメント	3
	東映㈱	6	㈱ショウガート	2
	角川映画㈱	6	東京テアトル㈱	2
	日活㈱	6	㈱東急レクリエーション	1
	ワーナー・エンターテインメント ジャパン㈱	4	TOHOシネマズ㈱	1
	㈱ソニー・ピクチャーズ・エンタテイ ンメント	4	大蔵映画㈱	1
	ウォルト・ディズニー・ジャパン㈱ ウォルトディズニースタジオ モー ションピクチャーズ ジャパン	4	佐々木興業㈱	1
	20世紀フォックス映画	4	武藏野興業㈱	1
	パラマウント・ジャパン	4	三和興行㈱	1
	㈱ギャガ・コミュニケーショ ンズ	3	㈱東京楽天地	1
	東宝東和㈱	4	バンダイビジュアル㈱	1

ピクターークス㈱	1	東宝アド㈱	1
㈱USEN	2	㈱サウンドマン	1
㈱IMAGICA	1	㈱クオラス	1
㈱東京現像所	1	エイベックス・エンタテインメント ㈱	1
報映産業㈱	1	㈱電通	4
東映ラボ・テック㈱	1	㈱博報堂DYメディア・パートナーズ	4
シンエイ動画㈱	1	ソニー㈱	1
東映アニメーション㈱	2	住友商事㈱	4
日本テレビ放送網㈱	4	コダック㈱	2
㈱東京放送	4	富士フィルム㈱	2
㈱テレビ朝日	4	㈱日本シネアーツ社	1
㈱フジテレビジョン	4	トップツアー㈱	1
㈱テレビ東京	3	ウシオ電機㈱	1
㈱NHKエンタープライズ	2	(社)日本映像ソフト協会	4
㈱WOWOW	1	(㈱)ティーワイリミテッド	1
スカパーJSAT㈱	1	㈱ヒューマックスシネマ	1
㈱衛星劇場	2	㈱チネチッタ	1
㈱ニッポン放送	1	㈱国際メディアコーポレーション	1
㈱エフエム東京	1	㈱レントラックジャパン	1
ジュピターエンタテインメント㈱	1		
㈱ポニーキャニオン	3		
㈱角川グループホールディングス	2		
びあ㈱	1		
㈱タカラトミー	2		
㈱小学館	2		
㈱集英社	2		
成旺印刷㈱	1		
カルチャー・パブリッシャーズ㈱	1		
㈱サンライズ社	1		
合計 72社 162口 81,000,000円			